

介護の世界でも、事業者目線のケアの実態が。。

NHKの「ルボ死亡退院」、途中でドロップアウトしてしまいました。

あまりの惨状に、吐き気と意識朦朧（血圧低下？）、体調が悪くなってしまったのです。私が、いわゆる精神疾患患者の元家族だったことも影響していると思います。私の妹は、精神疾患のために10年前に死亡しました。生後間もない女の子を残して逝きました。その姪を引き取り養育することに係る様々な日常に追われ、実子含め3人の子育ての中、悲しみに向き合う余裕もなく…しかし、「いつかはこのトラウマに向き合わなくてはならない」と少しずつ覚悟はしていました。

私はかつて演奏家をしていましたが、妹の死をきっかけに、ケアの世界に入りました。そこには、介護事業者目線のケアの実態が広がっていました。

しばらくは、「介護とはこんなもの、適応しよう。」とと思っていました。しかしクレッシェンドする思い…「なぜ、真に利用者目線のケアが成されないのか？」が常に心の奥にありました。

“死亡退院”で具合が悪くなったとき、私はまた、トラウマに蓋をして、仕事に没頭してみたりして、いつものようにやり過ごしていました。そして3月、再放送を知りました。その時、「向き合いなさい、今ですよ」みたいな直感を受け取りました。覚悟して臨んだので、再放送は通して見ることができました。そして視聴中、不思議なのですが「世の中に伝えなさい」という直感が降りてきました。

今の結論、ジャーナリズムにこそ、可能性を感じています。今の私にはまだ、滝山問題を世に問うておられる皆さんのような働きは無理なようですが、「伝えたい」思いは人一倍あるように思います。

闇がある一方、世界には光もあります。闇が深い分だけ、対になる陽のエネルギーでもって「伝える」ことをしてみたい！！と、今、強く思っています。

これまで音楽で表現することはあっても、文章表現については一般的な経験しかありません。まして人に伝わる文章を書く事は不慣れです。私というフィルターを通して自分なりの文章を書く事にトライしたいと思います。そしてさらに、それが第三者に伝わる文章になると、なお良いと思っています。